

## (第3分科会について) お子様の対応について

第3分科会では、災害避難所を想定してお子様の「遊び」について公開します。なお、**全日にわたり学生が対応**しており、“**新たな遊び**”が出来ますので、他の分科会に参加している保護者のお子様だけでなく、来場者全てが利用できます。**受付に来られると、学生が案内しますので、お気軽にご参加ください。**



(写真：鳴門市総合防災訓練でのブースの様子 2018.9)

## 安全で、清潔な玩具で遊ばせたいという願いに対応

—狭い場所や感染症対策など、現在の課題に適合する—

鳴門教育大学では、(株)おもちゃ王国(岡山県玉野市)・(株)グイットハート(岡山市)と“遊びと学び”をテーマにした「**産学共同研究**」を行っています。

今回使用する玩具は、**PolyM (ポリエム)**です。これは、ドイツの幼稚園の90%が採用し、現在、世界で30万以上の幼稚園が使用している優れものの玩具(知育教材)で、洗える玩具として注目を集めています。



また、『**レールブロック**』は、台湾の玩具メーカーのGIGOと連携して、日本の子どもたち向けにセット化したものであり、レール状のブロックをつなぎあわせて、コースを作り、そこにボールをころがすというシンプルな遊びですが、頭と体を使い、狭い場所で遊べるため、子どもだけでなく、保護者からも好評を博しています。

防災対策においても、避難所での子どもたちの遊び道具として、西日本豪雨で被災した岡山県真備町の避難所でも使われました。現在、一部自治体で防災備蓄用として採用されています。避難所では、子どものストレスが溜まりやすく、その対応に苦慮しますが、こうした玩具が、それを軽減させるだけでなく、多くの子どもが長時間遊べるという利点があります。この機会に、玩具の導入方法(価格など)も案内いたします。